

令和元年度 学校評価書（年度）

学校教育目標

豊かな人間性を育み、たくましく生き抜いていこうとする生徒の育成

〈今年度の重点目標〉

集団を高め自己を伸ばす振舞いができる生徒の育成
～「共感」「規律」をキーワードとして～



令和2年2月3日
大館市立北陽中学校

V 評価

ア 学校運営の状況

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
	良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
	おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
	やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
	努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

I 組織運営

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
「共感」「規律」をキーワードに特色ある学校づくりが計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	<ul style="list-style-type: none"> 副担任生を活用して連携の強化を図っていることがよい。 プロジェクトを作って、一段先を見据えて新しい教育目標を作ろうとしていることが画期的である。 「共感」「規律」「無駄に戦隊」「MONDAMEN」などキーワードを作り目指すところを明確にしていることで、生徒にも職員にも浸透している。
	年度	良好	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で共通理解を図るために、年度を通して学年主任会を軸にしながら手立を継続してきたことで、効果が上がっている。 事務職員と連携を図りながら事務処理の適正化、効率化が円滑に進められている。

自己評価の概要と学校の改善策

○開校5年目を迎え、今年度は「共感」「規律」をキーワードに、本校の強みである集団としての力を生かしながら北陽中生としての振る舞いに磨きをかけている。職員は式辞や職員会議での校長先生のお話、校長報「北陽魂」に込めた思いを受け止め、様々な場面で活かしている。そのため、1学期は3年生を中心に北陽中生の思いを一つにして活動する姿が見られた。週1回実施する学年主任会は、子どもたちにきめ細やかに寄り添い、学年間の連携を図る上で更に効果的になるように努めていきたい。また、副担任制のよさを子どもたちが更に実感できるように、学年内での連携・工夫を図っていきたい。

○事務職員が進行状況の資料を閲覧するなどいつも丁寧に支援してくれるので、事務処理負担の軽減がなされている。事務職員に任せっきりが当たり前にならないよう連携するという意識を高めていきたい。今後も予算執行、設備管理、設備補修等が迅速かつ正確に行われるように努めていきたい。

○2学期は、北陽中祭、嘉手納中との交流・なべっこ、各公民館でのボランティア活動、地域防災活動など保護者や地域の方々とのふれあう機会が多くあった。保護者や地域の方々に声をかけていただくことで、北陽中生の地域に対する愛着や地域へ貢献しようとする思いが高まっている。

○学校教育目標策定に向けてのPJミーティングが北陽中職員の絆を更に強くした。この北陽中に対する思いを引き継ぎ、さらに北陽中生としての「振る舞い」に磨きをかけていきたい。また、学年主任会等を効果的に活用し北陽中をリードする2年生を育てていきたい。

○事務職員との連携を図りながら、事務処理の適正化・効率化に努めることができた。

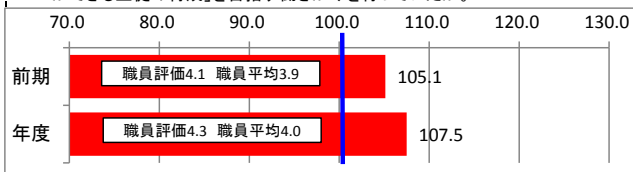
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
1 組織的運営体制の確立	(1) 運営方針等の浸透	三役会(校長, 教頭, 教務主任)と運営委員会の実施	3	4
	(2) 学年部組織の強化と連携	副担任制の維持及び学年主任会の実施と効果(手応え)の検証		
2 諸会議の効果的な運営	(3) 月1回の職員会議運営の工夫	提案記録の作成と提案時期の検証	3	4
	(4) 運営課題解決プロジェクトの実施	プロジェクトチームの立ち上げと課題解決		
3 事務職員との連携	(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理	事務職員との連携による事務処理負担の軽減と指導時間の確保 定期的な点検による設備管理及び予算管理の適正化	4	4

[1] に関連するデータ

【アンケート種別】 ○生徒 □保護者 ■教職員
【5段階評価】 5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや不十分 1:不十分

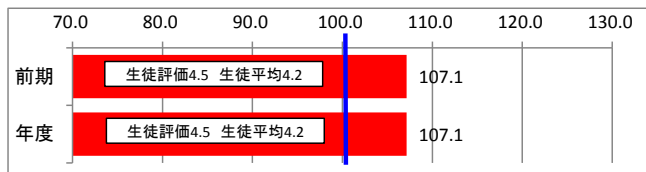
(1) 運営方針の浸透

■ 校務部会、運営委員会、職員会議が機能的に推進され、各担当から見直しをもった提案が行われていたか。また、重点である「集団を高め自己を伸ばす振る舞いのできる生徒の育成」を目指す働きかけを行っていたか。



(2) 学年部組織の強化

○ 担任と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくれましたか。



グラフは、職員アンケート全項目の評価平均値を100としたときの、当該項目の評価指数を表している。つまり、指数が100を超えていれば、職員は他の施策よりも良好と判断しており、100に届かない場合はその逆ということになる。

【職員アンケート自由記述より】
○主任を通して、各会議で話し合われた内容が学年部に周知されている。主任会はとてもいいシステムだと思っています。生徒指導上の問題の共有もすく助かります。
○学校教育目標策定に向けてのPJミーティングは、これからの北陽中の在り方を考える貴重な場となった。ここで共有した思いをR2年度に生かしたい。

[2] に関連するデータ

(3) 月1回の職員会議運営の工夫

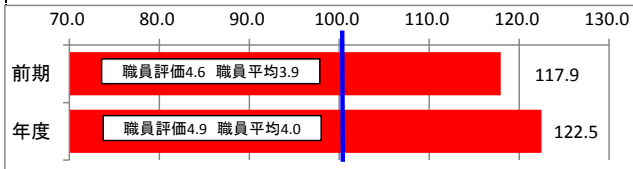
■ 管理職や分掌部長が、職員会議案件について各担当から見直しをもって提案されるような働きかけを行っていたか。



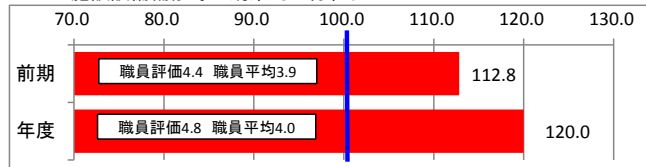
[3] に関連するデータ

(5) 事務処理の効率化・適正化と設備管理

■ 事務職員との連携により、私費会計の適切な執行・事務処理負担の軽減がなされていたか。



■ 配当予算が適切に周知され、消耗品の調整及び施設設備補修等が効果的に行われていたか？



ア 学校運営の状況

II 教師の研修

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の教育活動のレベルアップのために、教職員の研修が活発に行われている。	前期	おおむね良好	良好	・授業に活気がある。生徒が生き生きと取り組んでいる。 ・他の教科の教師であっても日常的に授業を参観し合ったりして高め合っている。 ・研究会で、職員の経験に応じて役割分担(質問する、批判する係など)していることで活性化させている。
	年度	良好	良好	・研修会では役割分担を決めて、教科の枠を超えて授業の視点について活発な意見交流を行うことで授業力が向上している。 ・学習課題の表し方については、更に共通理解を進めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○職員アンケート自由記述や数値から、「各教科等の特質に応じた見方・考え方を鍛える授業実践」について、各教科担当が悩みながらまさに研修中ということが見て取れる。「見方・考え方を鍛える授業」を実践するためには、教師の専門的教材研究と、授業のコーディネート力が不可欠である。教科の枠を超えた全職員による指導案検討会、指定訪問研究会、校内研修会、授業を見合う会等の機会をとらえ、これからも研修に励む教師集団でありたい。</p> <p>○「諸検査データの分析と活用」については、NRTや全国学テ結果の分析が1学期中にできなかった。夏期休業中の分析をもとに、2学期以降、改善に向けた取組をしていく。</p> <p>○昨年度から、校内研究会等研修会では、「全員一人2回以上発言」を合言葉に、主体的な姿勢で会に臨むことを全職員が心がけてきた。若手の先生が「無駄に戦隊」、中堅層が「MONDAMEN」というネーミングのもと、研究会では熱心で活発な意見交換が行われている。継続していきたい。</p> <p>○研究会では、「戦隊」「MONDAMEN」に続き「ほじなし」という役割分担も登場し、2学期もそれぞれの役割を飛び越えた活発な意見交換をすることができた。これらの役回りが生きる研修会であったと捉えている先生方が多いという結果が、アンケートの数値(4.1→4.5)からも読み取れる。中にはこういった役割が必要か疑問をもっている職員もいることから、年度初めに、本校の研究、そして研究会の在り方について、全職員で共通理解する場を設け、共通実践していきたい。</p> <p>○学び合い、高め合う授業づくりについては、年2回の「授業を見合う会」を実施し、「生徒による授業アンケート」結果を生かした授業改善に努めた。生徒の授業アンケート結果を見ると、10項目すべての数値が前期よりアップしている。その一方で、保護者による「学校の教科指導に対する評価」は若干ではあるが下がっている。今年度は、教科の見方・考え方を鍛える授業を目指したが、十分達成できなかったという反省もある。次年度以降も、「学びのおもしろ化」を目指し、各教科の専門性に根ざした教材研究を重ねていく。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
4 課題解決のための研究推進	(6) 学び合い高め合う授業づくり	各教科等の特質に応じた見方・考え方を鍛える授業実践 諸検査データの分析と活用	3	3
5 研修の実施及び活用	(7) 「チーム北陽」の資質向上を目指した研修の充実	「無駄に戦隊」と「MONDAMEN」が生きる研修会の工夫	3	4

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価{5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

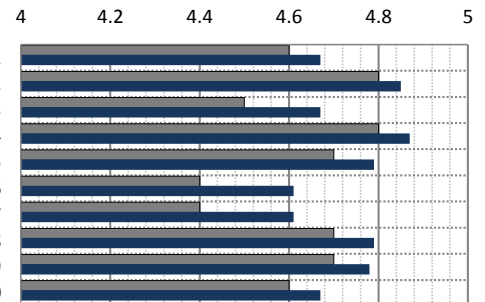
[4に関連するデータ]

- 各教科等の特質に応じた見方・考え方を鍛える授業実践は、一人一人の深い学びにつながっていたか。
- 諸検査データの分析と活用がなされて、生徒の確かな学力の定着を図ることにつながっていたか。
- 「授業のあいさつ」「聞く態度」「話し方」など、学習の約束を意識して学習できている。
- 自分の思いや考えを相手にしっかり伝え、話し合いながら学習を深めている。

R1前期	年度
3.3	3.7
3.5	3.6
3.7	3.7
3.6	3.6

○生徒による授業評価

- 1 チャイム前学習を行っていましたか。
- 2 学習課題(めあて)は、学習することやゴールがわかりやすいように示されていましたか。
- 3 先生の質問に対して、自分の考えや思いをもちましたか。
- 4 黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。
- 5 発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。
- 6 質問や友達の意見を受けて、わかりやすく伝えようとしていましたか。
- 7 自分の意見と比べたり、深めたりするような聞き方をしていましたか。
- 8 学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したりする時間が確保されていましたか。
- 9 学習内容はわかりやすいですか。
- 10 あなたは、意欲的に授業に取り組んでいますか。

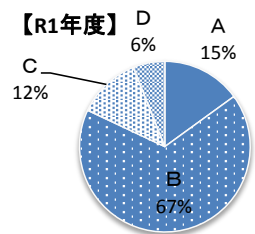
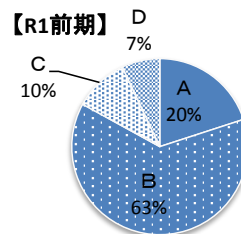


□学校での教科指導について、お父さんはどのように言っていますか。

- A どの教科も十分指導されている。
- B どちらかというようによく指導されている。
- C どちらかというようにあまりよく指導されていない。
- D どの教科ももっとよく指導してほしい。

	R1前期	R1年度
A	20	15
B	63	67
C	10	12
D	7	6

(単位:%)



[5に関連するデータ]

- 「無駄に戦隊」と「MONDAMEN」が生きる研修会になっていたか。

【職員アンケート自由記述より】

- 「授業を見合う会」以外にも、理科のように声をかけて頂くと、学年部として生徒を褒める機会にもつながってありがたい。
- 研究会での役回りは研究会の活性化につながっていると思う。
- 実際の研究会で役割を越えて、全職員が疑問や意見を述べ合えるのが北陽中の強みだと思う。
- ▲「授業を見合う会」の時期の再検討 ▲授業での「振舞い」に磨きを
- ▲経験に裏打ちされた感想や意見をもっと

R1前期	年度
4.1	4.5

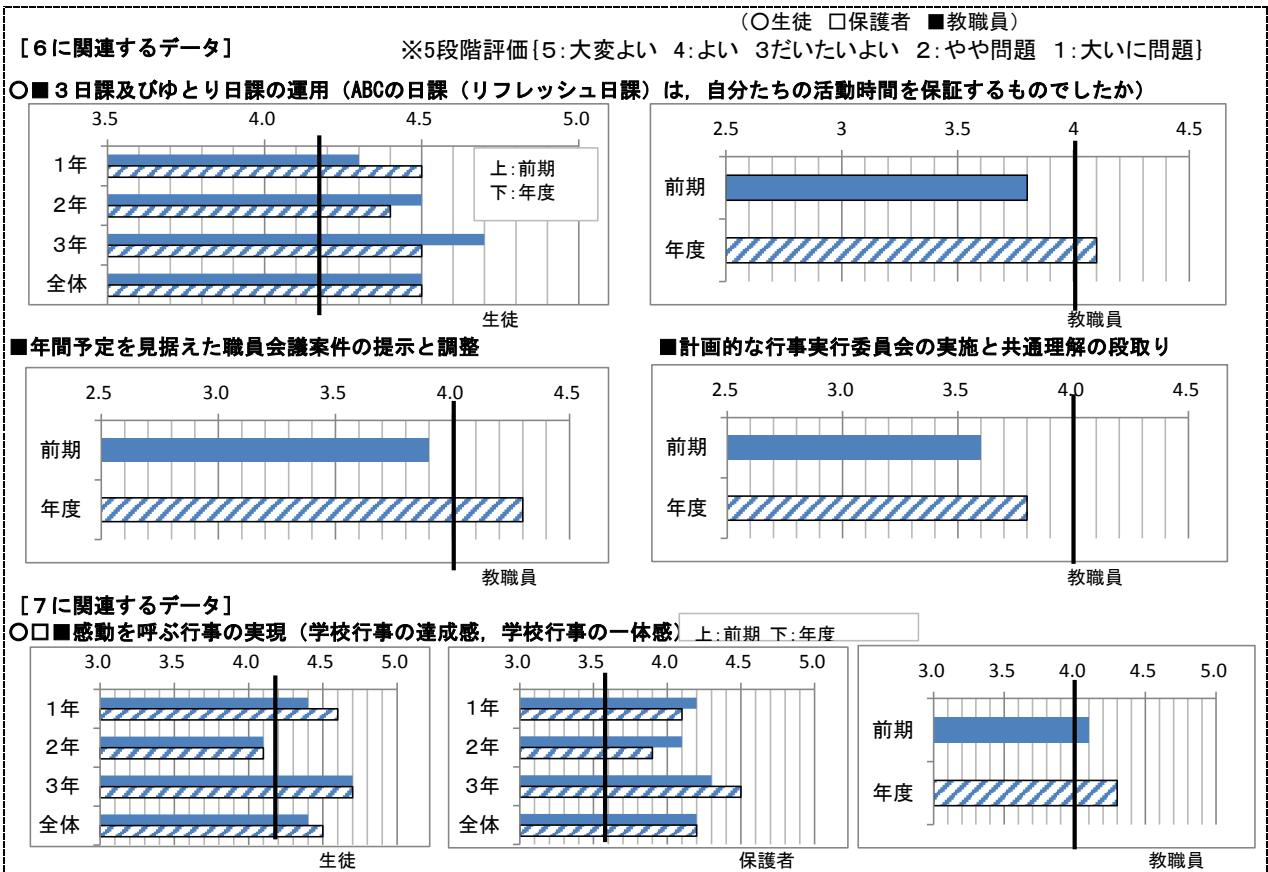


ア 学校運営の状況

Ⅲ 特色ある教育活動

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
地域に根ざした特色ある教育活動に、誇りと気概をもって取り組んでいる。	前期	おおむね良好	おおむね良好	・実施しているであろう特色ある行事や活動をもっとアピールすることで、生徒にも保護者にも意識化させていきたい。
	年度	良好	良好	・学校行事についての生徒の達成感が高くなっている。集団としての「振る舞い」が実践されている。 ・学校から地域に出かけて行く防災活動や地域行事への参加の継続により、更に意識を高めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○校長が「本業の時代」と位置づけている「学校自立期」2年目となった。新しい学校目標策定を控え、「北陽中の本質とは何か」という問いを発しながら、生徒も教職員も一体となって取り組んでいる。アンケートの結果を見ると、職員の項目が昨年度より低くなっており、職員減に伴って動きにスムーズさを欠いたり、共通理解が不足していたりしたことの影響と考えられる。一方、保護者や生徒のアンケートの数値は向上しており、北陽中の活動の良さを保護者や生徒が自覚できていることの現れとみられる。</p> <p>○後期の取組として「声を上げて確認」を挙げたい。連絡事項などを文書で伝えてはいるものの、そのことを全体で確認する時間はとりにくい現状にある。研修会では「無駄に戦隊」「MONDAMEN」の取組が効果を上げているので、そのことを普段の教育活動全般で生かしていけるようにしたい。「聞こえるように声をかける」「不明な点は積極的に聞いて確認する」など、基本を徹底して、後期はよりスムーズに活動が行えるように支援したい。</p> <p>○「北陽中の強み、本質とは何か」「集団を高め自己を伸ばす振舞いとは何か」ということを模索しながら、教育活動に取り組んできた結果、各アンケートの指標は、前期に比べて向上している。特に、前期の課題だった職員間の意思疎通、共通理解の向上の取組みに関しては、職員アンケートの数値からもかなり改善されたことが分かる。生徒や保護者の数値は前期並み、コメントもおおむね好意的なものが多く、職員の取組が浸透してきたものと捉えたい。</p> <p>○昨年度から取り組んでいる、自習を回避する弾力的な時間割運用、会議資料の前渡しなどによる会議時間の短縮は、定着し効果を上げている。先生方の協力に感謝したい。地域連携活動については、学校に地域の方をお招きするのみではなく、学校から地域に出て行く活動(地域防災活動や公民館祭りへの参加など)を大切に、北陽中が地域コミュニティーづくりの中心となれるように、支えていけるようにしたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
6 特色ある教育課程の編成	(8) 生徒の活動を支える日課の工夫	2日課及び特別日課の運用	3	3
	(9) 教育活動を支える見通しある提案	年間予定を見据えた職員会議案件の提示と調整		
7 学校行事等の計画	(10) 感動を呼ぶ学校行事の実現	計画的な行事実行委員会の実施と共通理解の段取り	3	4
		地域連携活動の継続(教育課程及び行事予定への位置付け)		



イ 生徒の状況

IV 主体的な学習態度・確かな学力

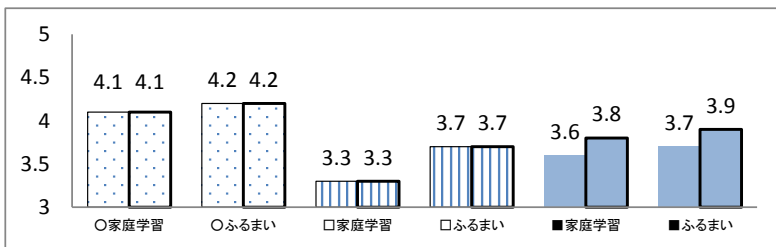
学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
生徒が主体的に学習に臨み、基本的学習習慣と確かな学力を身に付けるように取り組んでいる。	前期	おおむね良好	おおむね良好	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの「おもしろ化」によって、学習への興味・関心を高めている。 ・学び合いについての生徒の意識は高く、授業でも意欲的に話し合っている。 ・確かな学力向上のために読書活動の時間の確保と意欲を高める工夫によって一層充実を図りたい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取組はすばらしく、主体的な学習態度が見られる。この意欲を家庭学習への取組にも生かしてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○「主体的な学習態度」については、昨年度に達した一定の基準からさらに向上させるために、振り返る視点を焦点化した学習ががんばり表の活用、個々のがんばりを認める「学習goodさん」紹介の方法の改善、家庭学習の手引きを活用した指導、「家庭学習goodさんコーナー」の設置などを実施した。生徒や教職員には成果が少しずつ見えてきているものの、保護者の評価は低い。家庭や地域での生徒の姿にも着目しながら、今後の手立てを工夫したい。</p> <p>○「授業の充実」については、特に学びの「おもしろ化」の評価が低い。研修部と連携し、まずは積極的に日常の授業を公開し合う機会を増やし、職員全体で切磋琢磨したい。</p> <p>○「生徒の力を高める諸活動」のドリル学習については、昨年度生徒の意欲が高まった「全学年統一PUD」を1学期に実施した。内容は小学校の漢字や計算だったため、特に1年生の学習状況の実態把握もできた。読書については、国語科と文化委員が連携し、2学期に全学年統一の本を読む活動を行う予定である。</p>			
	<p>○「主体的な学習態度」については、ご来校くださったたくさんの方々に、北陽中の「ふるまい」を褒めていただいた。何よりも生徒の頑張りを称えた上で、新たな目標を設定し、集団をより高め、自己をより伸ばす「ふるまい」を目指したい。また、学年部と連携し、1、2年生間で、授業交流や効果的な家庭学習について話し合うフロンティア集会などを行い、来年度への良いステップを踏みたい。</p> <p>○「授業の充実」については、研究授業や授業を見合う期間の設定を通して、職員同士が互いに刺激し合えた。教科の特性に応じた「見方・考え方」の整理をより意識しながら取り組むことで、課題となっている学びの「おもしろ化」につなげていきたい。</p> <p>○「生徒の力を高める諸活動」のドリル学習については、各学年の問題、全校統一問題と変化をつけて取り組んだ。読書については、国語科と文化委員が連携し、「全校統一読書」を試みた。全校生徒が同じ本を読み、作品の魅力を大勢で語り合う楽しさを味わった。学年によって、また、個々によって読みの視点が違うことにも気付いた。今後も読書の幅を広げる取組を継続したい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
8 基本的学習習慣	(11) 主体的学習態度の育成	授業における「ふるまい」の提示と定着 家庭学習充実のための働きかけ(PUN家庭学習の手引き等)	3	3
9 確かな学力	(12) 授業の充実	1単位時間の効果的なコーディネート(50分ものさし等)と学習形態の工夫 専門的教材研究に基づいた学びの「おもしろ化」	3	3
	(13) 生徒の力を高める諸活動	ドリル学習、朝読書の実施		

(○生徒 □保護者 ■教職員) ※5段階評価(5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題)

【8に関するデータ】

主体的学習態度の育成(左:前期, 右:年度)

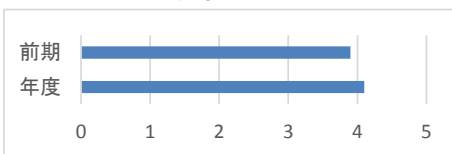


全校統一読書 芥川龍之介「蜘蛛の糸」

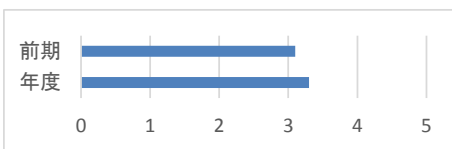
【9に関連するデータ】

授業の充実

■1単位時間の効果的なコーディネートと学習形態の工夫



■学びの「おもしろ化」



教科アンケート	前期	年度	
	チャイム前学習を行っていましたか。	4.6	
学習課題(めあて)は、学習することやゴールが分かりやすいように示されていましたか。	4.8	4.9	↑
先生の質問に対して、自分の考えや思いをもちましたか。	4.5	4.7	↑
黒板には、50分ものさしや学習内容がわかりやすく示されていましたか。	4.8	4.9	↑
発表や話し合い、意見交換などの友達との活動がありましたか。	4.7	4.8	↑
質問や友達の見解を受けて、分かりやすく伝えようとしていましたか。	4.4	4.6	↑
自分の意見と比べたり、深めたりするような聞き方をしていましたか。	4.4	4.6	↑
学習したことをまとめたり、身に付けたことを使って練習したり、振り返ったりする時間が確保されていましたか。	4.7	4.8	↑
学習内容は分かりやすいですか。	4.7	4.8	↑
あなたは、意欲的に授業に取り組んでいましたか。	4.6	4.7	↑

生徒の力を高める諸活動

	前期	年度		
○生徒	ドリル学習で学習内容の定着を図ることができましたか。	4.3	4.3	—
■教職員	ドリル学習、読書活動は効果的に実施されたか。	3.8	3.9	↑

イ 生徒の状況

V 自主的・自律的な生活,望ましい生活習慣

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
生徒一人一人の心身の状態に目を向けながら、明るく心のもった挨拶など規律ある落ち着いた生活を実現している。	前期	おおむね良好	良好	「あやめ運動」によって、あいさつや規律への生徒の意識は高く実践力も高い。 ・メディアコントロール運動の取組によって、さらに生活習慣の改善を図りたい。 ・生徒や保護者の悩み、困りごとに対応するための機能を一層充実したい。
	年度	おおむね良好	良好	・校内の挨拶はよく頑張っているが、地域において一人であると、まだできていない所がある。 ・メディアコントロールの向上のための施策は、家庭や小学校と連携して継続した取組を進めていくことで改善につながる。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○「あやめ運動」については、委員会活動等で意識した活動がなされていた。今年度から「A-1グランプリ」という、挨拶の良かった生徒や団体を定期的に伝える活動をしている。また、「あさこえ運動」も毎朝継続して取り組んでいる。このことが生徒アンケートの数値に表れている。一方、北陽中が求めている挨拶ができていない生徒がいたり、校外での挨拶の質の低下が感じられたりしている。いつでも、どこでも、何度でも元気で明るい挨拶ができるように、働きかけていきたい。相手に対する礼儀と感謝の気持ちを表す大切に必要な行いであることを、部活動や諸行事などを活用して指導していきたい。</p> <p>○「メディアコントロール」については、テスト勉強のための部活動休止期間にシートを利用して働きかけているが、メディアコントロールができていないと、言いがたい。学級担任、部活動担当、保護者が様々な機会に何度もメディアコントロールの大切さを継続的に伝える必要がある。そうすることで、生徒の自律心が高まると考えている。</p> <p>○生徒の安全については、関係機関との連携により、自転車通学の登下校指導、毎朝の校門指導、クマの出没情報の迅速な情報提供など、安全対策が図られた。今後も継続して取り組み、生徒の安全確保に努めていきたい。</p> <p>○数値を見れば、前期とあまり変わらない数値ではあるが、「いつでも、だれにでも、何度でも」、「明るく、さわやかに、笑顔で、心から」挨拶をするという意識の低下が感じられる。もう一度全職員で挨拶について確認し、生徒に働きかける必要がある。同時に中央執行委員会や生活向上委員会とも連携し、挨拶への意識を高めていきたい。</p> <p>○メディアコントロールについては数値が低く、メディアコントロールができていない寝不足になったり、友人とのトラブルになったりした生徒もいた。生徒へは教育相談、学年や全校集会などで指導し、保護者へは、PTA懇談会や学年通信や保健だよりを通して情報提供をすることを継続したい。外部指導者を招いたり、生徒、先生、保護者が話し合う機会を増やせるよう今後も努力したい。</p> <p>○生徒の安全については、関係機関や地域の方々の協力のおかげで、安全に登下校ができています。今年度は、登校時に車から降りる場所を校内にしたり、避難訓練の反省を生かして、日中に生徒玄関を施錠したりと、今まで以上の安全対策を図ることができた。冬期間になり、路面凍結など、今までは安全だったところが危険個所が変わることがあるので、その都度注意喚起をして、生徒の安全確保に努めたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
10 規律ある学校生活 (14)	集団生活のきまりの理解と遵守	日常生活における「ふるまい」の提示と実践意欲の喚起(共通実践事項等) 地域・保護者や近隣小学校と連携した安全指導の推進や事後指導の充実	3	3
11 心身の健康の保持増進 (15)	健全な生活習慣の育成	メディアコントロール運動を中心とした望ましい生活習慣の定着	3	3
12 教育相談の実践 (16)	日常的・積極的な教育相談と生徒理解	教育相談の充実による相談環境の確立 多面的な生徒理解と事例の見立てに係る研修の推進	3	3

(○生徒 □保護者 ■教職員)

【10に関連するデータ】 ※5段階評価(5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題)

(14) 集団生活のきまりの理解と遵守

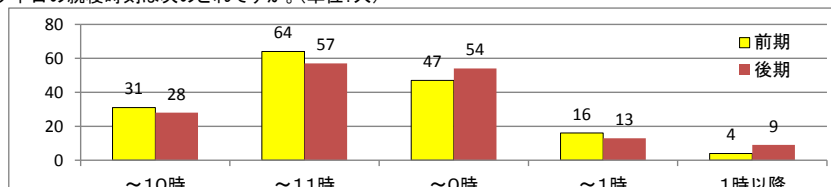
- 「あいさつをしよう」いつでも、どこでも、誰に対しても、明るくさわやかなあいさつをすることができましたか。
- 「やくそくを守る」学校生活のきまりや約束などを、しっかり守ることができましたか。
- 「めあてをもとう」いろいろなことに、めあてをもって取り組む事ができましたか。
- 「あやめ運動」(元氣なあいさつ、やくそくを守る、めあてをもつ)により、規律ある学校生活が実現していると思いませんか。
- 警察などの関係機関や地域・小学校と連携した安全指導が、効果的に進められていると思いませんか。
- 日常生活における「ふるまい」の提示と生徒指導共通実践事項の共通理解が図られ、生徒の自律心を育むことにつながっていたか。
- 安全指導を推進する上で、関係機関、地域・保護者、小学校などと連携を図っていたか。

R1前期	年度
4.3	4.2
4.4	4.4
4.3	4.3
3.6	3.6
4.0	3.8
3.4	3.9
4.2	4.3

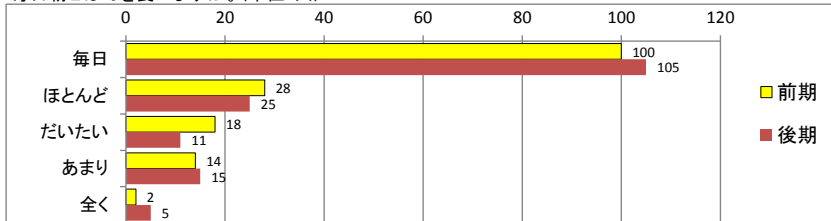
【11に関連するデータ】

(15) 健全な生活習慣の育成

○ 平日の就寝時刻は次のどれですか。(単位:人)



○ 毎日朝ごはんを食べますか。(単位:人)



- 家庭でのメディアコントロールの働きかけは適切ですか。
- 「すこやかチャレンジカード」を活用しての学校の取組は、「早寝、早起き、朝ごはん、歯磨き、メディアコントロール」の意識化に役立っていますか。
- 「メディアコントロール運動」の取組が、「早寝、早起き、朝ごはん」の定着につながっていたか。

【12に関連するデータ】

(16) 日常的・積極的な教育相談と生徒理解 (17) 理解と指導をつなぐ「見立て力」の向上

- 悩み、困りごとを、友達や先生に相談できる雰囲気がつくられていると思いませんか。
- より良い学級、学年にしようと努力できましたか。
- 担任や副担任、養護教諭、SC等による教育相談が機を逃さずに行われていたか。
- 多様な手立てによる生徒理解と事例の見立てに係る研修が行われていたか。



防犯文集「和気」表彰式



花岡「おはよう」作戦

R1前期	年度
3.0	2.8
3.2	3.2
2.8	2.7

R1前期	年度
4.2	4.1
4.3	4.3
3.9	4
4.0	3.8

イ 生徒の状況

VI 思いやりの心、たくましい心

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
一歩前に出て積極的に活動に取り組み、お互いの良さを認め合い、協力し合いながら豊かな人間性を育てている。	前期	良好	<ul style="list-style-type: none"> 各学級ともに明るく伸び伸びとしており、個を認め合う雰囲気豊かな心を育てている。 先生と生徒の関係もよく、信頼関係が構築されている。
	年度	良好	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員、保護者も「北陽魂」を意識して一丸となって取り組んでいることがヒアリングから伝わってきた。 生徒や保護者の要望や相談も受け入れ、職員間で共有しながら生徒指導に努めている。学級経営を更に充実させるための副担任の活用を工夫してほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>○朝の会では、日直のスピーチやスピーチに対して質問する場面を作っている。帰りの会では、生徒の自発的な行為を紹介する「ちよいボラ」、授業中に頑張った生徒を紹介する「学習goodさん」など、お互いの良さを認め合う場面を意図的に設定することができた。今後は学年集会でも、共感し合える場を設定していきたい。</p> <p>○副担任制の活用は、職員数の減少で昨年度より機能していないが、提出物のチェックや生徒の見届けなど連携を密に行っていきたい。</p> <p>○学校行事は、学級委員や実行委員、各リーダーが中心となって取り組み、成功させることができた。入学して間もない1年生にとっては日期的に大変だったが、限られた時間の中で主体的に計画を立て、目標に向かうことができた。</p> <p>○生徒総会の全校協議では、学年にわたったことで多くの生徒が意見を発表することができた。委員会活動については、活動がマンネリ化している傾向にある。「北陽中のために、自分たちには何が出来るか」という主体的な意識をもたせ、「あやめ」を焦点化した取組を行っていききたい。</p> <p>○大会前や長期休業前にキャプテン会議を定期的に行った。担当教員とキャプテンが「北陽魂の心得」(共通実践事項)を確認し、部員全員に内容を伝えて理解させることによって、部活動に向かう意識が高まってきている。</p> <p>○各学級で委員会の新しい取組を伝えたり、呼びかけをしたりすることによって、朝や帰りの会でたくさんの生徒が活躍する場面が増えてきた。</p> <p>○学校行事に関する項目で、前期より高い数値を示した。北陽中祭に向けて、部門長が中心となり、先を見通した活動を行うことができた。職員も少ない人数ながら、生徒や他の職員と協力しながら計画的に進めることができ、「北陽魂」を意識した学校行事を創り上げることができた。学校行事は北陽中の強みになりつつある。</p> <p>○国語科と文化委員会が主体となり、読書に関するフレンドリー集会を行った。集会のテーマについては、多くの生徒が意見を出せるように、テーマを工夫し、話し合いを活発にしていきたい。</p> <p>○生徒会活動が2年生にバトンタッチされた。集会の準備や片付け、加湿器管理など、新しい活動を加えながら学校をよりよくしようと取り組んでいる。</p> <p>○部活動も2年生にバトンタッチされ、新人総体前や長期休業前にキャプテン会議を行った。あいさつや振舞いについては、もっと強化していけると感じる。校内練習では、ケガをする生徒がおり、生徒と職員で約束ごとを再確認し、徹底させる必要がある。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
13より良い集団生活を旨とする学級・学年活動	(17) 本音で語り合える学級・学年づくり	共感力の向上を目指した学級経営の推進(副担任制度の活用と学級活動の充実)	4	4
	(18) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」	リーダーを中心とした学級・学年集団の育成(リーダーシップ、フォローアップの育成)		
14集団力を高める自主的・自立的諸活動	(19) 気概にあふれた学校行事	「北陽魂」の意識化と生徒会主体の学校行事づくり	4	4
	(20) 「あやめ運動」を通じた創造的委員会活動	「あやめ運動」を基軸とした日常活動の創意工夫		
	(21) 仲間を大切にしたい規律ある部活動	「北陽魂」を旗印とした、部活動運営における共通実践の徹底		

(○生徒 □保護者 ■教職員)

[13に関連するデータ]

※5段階評価{5:大変よい 4:よい 3:だいたいよい 2:やや問題 1:大いに問題}

(17) 本音で語り合える学級・学年づくり

	R1 前期	R1 年度
○担任と副担任は協力して、学級のために指導や支援をしてくれましたか	4.5	4.5
○お互いの良さを認め合いながら、協力して学級づくりに励むことができましたか。	4.5	4.4
○朝の会や帰りの会で活躍する場面がありましたか。	4.3	4.3
■副担任制を活用した学級経営と学級活動の充実が図られていたか。	3.8	3.8

(18) 学校行事を生かした「高め合う学級・学年づくり」

○より良い学級、学年にしようと努力できましたか。	4.3	4.3
○生徒総会やフレンドリー集会では、みんなと意見を出し合い、考えを深めることができましたか。	4.2	4.2
■学校行事を生かしながら、リーダーを中心とした学級・学年集団の育成が図られていたか。	4.2	4.2

[14に関連するデータ]

(19) 気概にあふれた学校行事

○学校行事での達成感ほどの程度でしたか。	4.4	4.5
□学校行事は、各テーマのもと、学級や学年、全校のまとまりが感じられる活動となっていましたか。(運動会、修学旅行、校外学習、激励会など)	4.2	4.2
□学校行事を通して、学校のねらいや生徒の思いが伝わりましたか。	3.9	4
■「北陽魂」を意識させながら、生徒会主体の学校行事が創られていたか。	4.1	4.3

(20) 「あやめ運動」を通じた創造的委員会活動

○他の人の役に立つ行動や他の人を思いやる行動ができましたか。	4.3	4.4
○より良い学校をつくらうと、生徒会活動に積極的に取り組みましたか。	4.2	4.2
■日常の委員会活動では、「あやめ運動」を意識しながら創意工夫が行われていたか。	3.4	3.5

(21) 仲間を大切にしたい規律ある部活動

■「北陽魂」を旗印とした部活動運営がなされ、共通実践事項の徹底が図られていたか。	3.9	3.7
--	-----	-----

◇8月の地域防災活動への参加状況(人)

生徒	地域住民	小学生	合計
144	155	75	374

◇1月の地域防災活動への参加状況

生徒	地域住民	小学生	合計
151	74	98	323

1: 大いに問題



新しい話し合いのスタイル〜F集会〜



168の侍が創り上げた北陽中祭



長期休業前のキャプテン会議

ア 学校運営の状況

Ⅶ 保護者・地域との連携

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
保護者地域との信頼関係を積極的に構築するとともに、具体的連携の基礎を築いている。	前期	良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> ・学校報の全戸配布の継続により、学校の活動の様子がよく伝わっている。 ・「ようこそ先輩」の実施や子どもハローワークへの参加などによって、ふるさとへのよさに気づき、将来の目標をもつことにつながっていると思われる。 ・夏の防災活動は、本来の趣旨を見直した活動の工夫を図りたい。
	年度	良好	良好	<ul style="list-style-type: none"> ・学校報の全戸配布により学校の様子を発信することで、地域の理解を得ることができている。是非、継続してほしい。 ・公民館や保育園、子ども園等の地域の施設の行事に積極的に参加し、生徒の貢献する力が高まり、地域との信頼関係も高まっている。
善自 策己 評 価 の 概 要 と 学 校 の 改 良	<p>○学校報を全戸に配布する取組は、学校の活動状況を的確に伝えたり、保護者・地域と学校のつながりを強くしたりする上で効果的である。保護者や地域の方々が、北陽中生のよさや頑張りを北陽中生の「振舞い」を通して更に実感できるように各学年バランスよく記事として取り上げていきたい。</p> <p>○6月5日(水)には、キャリア講演会「ようこそ先輩」を開催し、社会で活躍している卒業生の佐藤龍一夢さん(コウライザー)、6月21日(金)の1学期PTA教育講演会では、鷹巣中学校の養護教諭 藤嶋先生、7月2日(火)の地域防災会議では、文部科学省の森本安全教育調査官からのご講話を通して、着実にふるさとに根ざして生きる思いを高めることができた。子どもハローワークに参加する生徒も昨年度より増加している。8月4日(日)に実施した夏の防災活動は晴天にも恵まれ、保護者・地域の方が合計で155名(昨年は140名)参加して下さった。</p> <p>○学校報の内容を各学年バランスよく取り上げることを意識して作成した。生徒会活動が3年生から2年生へバトンタッチされ、取り上げる内容が2年生、1年生の割合が多くなったため、2年生、1年生のデータの数値が前期より向上した。今後も内容のバランスを考えて作成し、北陽中生のよさや保護者・地域の方々に対する感謝の気持ちを発信していきたい。また、学校報配布担当生徒も3年生から2年生、1年生へ引き継ぎをしたので、学校報配布の意義を伝えていきたい。</p> <p>○防災活動をはじめ各公民館や福祉施設、幼稚園へのボランティア活動などに積極的に参加してきた。保護者や地域の方々とのふれあいをとおして、北陽地区への愛着や貢献しようとする思いを高めることができた。北陽中のよき伝統であるので、継続した取組を進めていきたい。</p> <p>○子どもハローワークを活用したボランティア活動への参加延べ人数は、12月現在で226名で昨年度より増加している。(昨年度は133名)</p>			

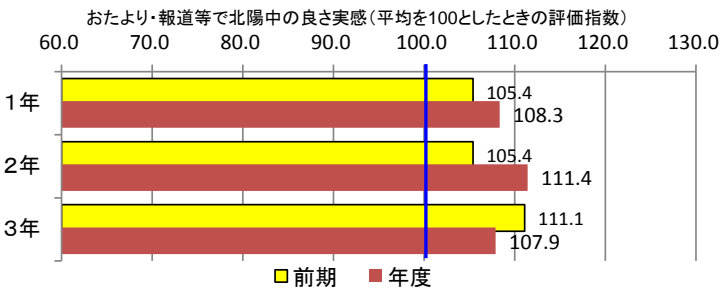
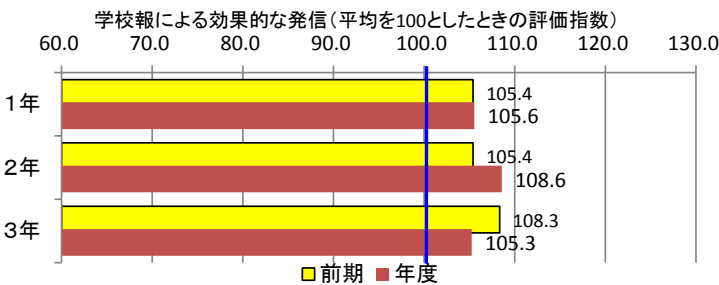
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
15 情報の発信の工夫	(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信の発行	学校報配布システムの構築と運用による情報発信	4	4
16 地域の教育力の活用	(23) PTA活動の活性化	PTA活動への積極的支援と働きかけ	4	4
	(24) 職場体験・子どもハローワークの積極的活用	子どもハローワークの推奨 防災活動を柱とした地域ボランティアの推進		

[15]に関連するデータ

(22) 学校と家庭・地域をつなぐ諸通信

【□保護者の評価】

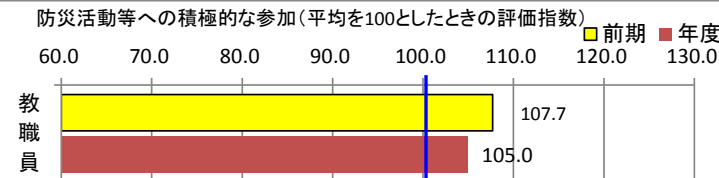
(評価平均 1年3.8 2年3.8 3年4.0)



[16]に関連するデータ

(25) 防災活動や地域行事への積極的な参加

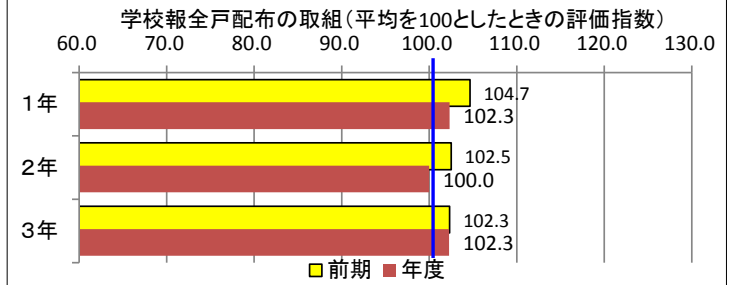
【■教職員の評価】(評価平均 4.0)



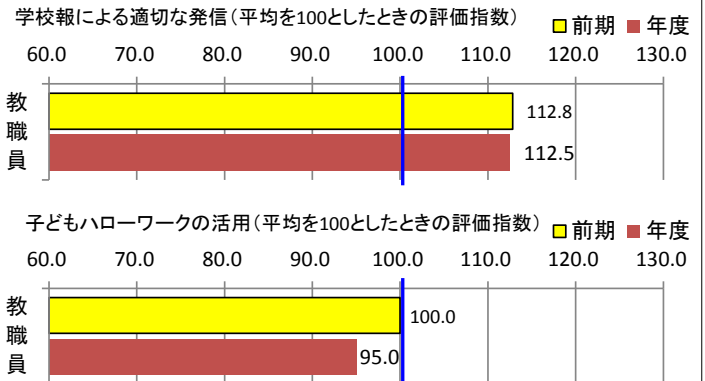
○生徒アンケート全26項目 □保護者アンケート全19項目 ■教職員アンケート全32項目
アンケート種別ごとに、評価値の平均を100としたとき、それぞれの項目の評価指数を算出

【○生徒の評価】

(評価平均 1年4.4 2年4.0 3年4.5)



【■教職員の評価】(評価平均 4.5)



◎子どもハローワークの参加延べ人数226人が参加(12月現在)

【地域の方々等が参加した諸行事と人数】

なべっこ(10/11)	学年PTA(12/2)	地域防災活動(1/8)
婦人会 18名	保護者 55名	参加者323名